

# 令和2年度 施策評価表(令和元年度決算評価)

施策名: 生涯学習  
 施策番号: 02 - 01

## 1 基本情報

施策名	02 生涯学習	展開方向	01	主体的な学習や生きがいづくりを支援し、その成果を地域社会に活かすことのできる人づくり・しくみづくりを進めます。
主担当局	教育委員会			

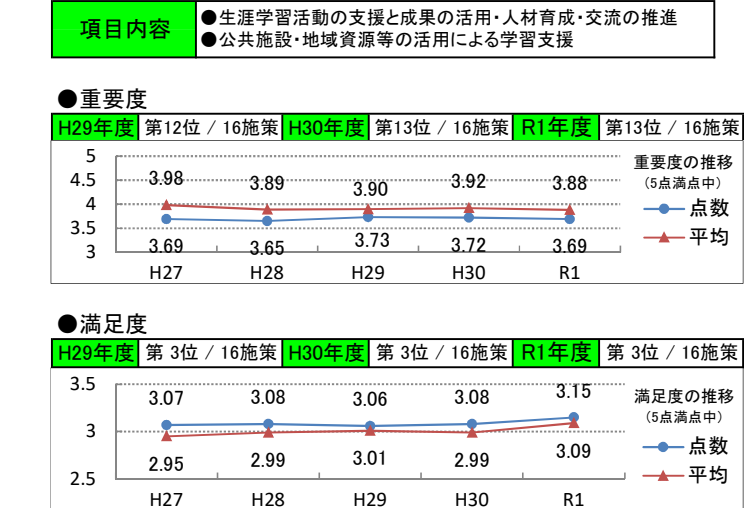
## 2 目標指標

指標名	方向	目標値 (R4)		実績値							進捗率 (R1)	
				H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1		R2~R4
A 学習を活かせる講座の受講者数	↑	1,715	人	-	-	1,593	1,633	1,879	2,080	2,216		100%
B 地域学校協働本部の実施校数	↑	41	校	-	-	-	7	18	30	36		87.8%
C 図書の貸出し冊数	↑	156万	冊	140万	137万	153万	152万	156万	146万	146万		93.6%

## 3 主要事業一覧

令和2年度 主要事業名	
1	学社連携推進事業
2	
3	
4	
5	
令和元年度(平成31年度) 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	
平成30年度 主要事業名	
1	学社連携推進事業
2	
3	
4	
5	

## 4 市民意識調査(市民評価)



## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和元年度実施内容を記載)	
行政が取り組んでいくこと	生涯学習活動の支援と成果の活用・人材育成・交流の推進
【学校教育と社会教育の連携の推進】	(目的)地域の皆さまの活動や学習の成果を活かすとともに、子どもたちの学びや育ちを支援する仕組みづくりを促進し、学校を核とした活動を通じて地域のつながり・教育力の向上・地域の活性化を図る。 (成果)①地域学校協働活動が継続的・発展的に展開されるよう、研修会・交流会の実施や地域学校協働活動推進員、校長、地域課、社会教育課による推進会議を開催した。実践活動としては、昔あそび、稲刈り体験や防災教室など、学校を核として地域と学校が連携・協働して一体となった様々な取組が、子どもたちの豊かな学びや経験の提供につながっている。また、令和2年4月に地域学校協働本部を小学校全校に設置することができた。(目標指標B) (課題)①「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向け、教職員全体への意識啓発、制度の浸透等に取り組む、これまで以上に地域と学校の連携を深めていく必要がある。
【地域活動支援と学びの連携】	(目的)これまで公民館が実施してきた事業を継承しつつ、生涯にわたる様々な学びの機会を提供し、地域のつながり・地域の活性化等を図る。 (成果)②各地域振興センターの取組の中で、事業目的等を改めて見直ししながら、振り返りも重視して事業の実施を行うことができたほか、市民自らが講師となり、自らの学びを他者に伝え、お互いに学ぶ取組が増えている。 ③各地域振興センターの取組の中で情報発信等を含めて実施できるようになったことで、ボランティア活動をはじめ、地域活動との連携が行いやすくなった。 ④生涯学習情報誌「あまナビ」については、生涯学習プラザ開設にあたり特集を組むほか、各地域課の生涯学習の取組を紹介するため特集ページを企画した。 (課題)②事業の進捗確認を行い、評価・振り返りを行うための指標が必要である。 ③生涯学習プラザでの取組だけでなく、様々な主体が提供する学びの情報把握に取り組む必要がある。
行政が取り組んでいくこと	公共施設・地域資源等の活用による学習支援
【図書館の利用促進】	(目的)市民の教養、文化、調査、研究、レクリエーション等多様な要求を適時、適切に援助し、貸出や閲覧に供するための図書及び視聴覚資料並びに逐次刊行物を購入し、適正な図書館の運営を図る。 (成果)⑤限られた予算の中で、利用者のニーズに応えるよう選書を行い、図書等を購入した。特に令和元年10月に開館したユース交流センター図書室では、青少年対象の図書に重点を置いた選書を行った。また、市民の調査相談の求めに応じ、図書資料等を基にしたレファレンスを適切に行った。(目標指標C) (課題)⑤市民1人当たりの貸出冊数及び図書購入費が、阪神間各市並びに類似都市と比較して依然として低水準にあるため、利用率の向上に向け検討が必要である。
【市民の読書意欲の向上】	(目的)市民の読書意欲を高めるため、各種図書館事業を実施する。特に子どもたちやその保護者などに対しては、読書習慣への動機づけを図るための事業を、ボランティアとの協働により実施する。 (成果)⑥親子や妊婦を対象とした講座や児童対象の行事をボランティアとの協働により行った。また、城内まちづくり推進事業と連携して市立図書館開館100周年事業を実施し、読書の推進とシビックプライドの醸成を図ることができた。(目標指標C) (課題)⑥普段は図書館を利用しない層の来館促進につながるよう行事の企画を検討していく必要がある。また、おはなしボランティアと協働し、幅広い世代の担い手の養成に向け取り組んでいく必要がある。

## 6 評価結果

令和2年度の取組	
【学校教育と社会教育の連携の推進】	①「地域とともにある学校づくり」について周知を図るため、教職員やPTA・地域住民への研修や出前講座を実施する。また、学校運営に地域の人々の参画を進めるため、モデル校において「コミュニティ・スクール」を導入し、ノウハウを蓄積する。
【地域活動支援と学びの連携】	②③新型コロナウイルスの感染拡大の状況を見据えながら、事業再開に向けて、生涯学習プラザ全体として、事業目的を改めて整理共有する中で、新たな指標を設定し、事業の進捗を行いながら取組を進める。
【図書館の利用促進】	⑤市内の学校園等への団体貸出などにより利用を促進し、児童生徒が図書に親しむ契機や機会の創出を図る。また、貸出促進につながるよう、図書館内のサインの整備や図書の見せ方について、より一層の工夫を行う。 ⑤新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休館の機会を捉え、今後の図書館サービスのより一層の充実に取り組みとともに、図書館の運営方針について、関係者からの意見を踏まえ素案を作成し、令和3年4月からの施行を目指す。
【市民の読書意欲の向上】	⑥市内の学校等と連携した事業の実施に取り組む、市民の来館促進を図る。
主要事業の提案につながる項目	

・地域学校協働本部については全校に設置することができた。今後も地域と連携しながら様々な学びや活動の場につなげていく。

・地域活動支援と学びの連携については、防災や感染症対策など具体的なテーマを通じて、住民同士の地域課題の共有を図るとともに、市民としての主体的な学びと実践が融合した取組を進める。

・人権啓発・教育については、新型コロナウイルス感染症の影響や災害時における避難所運営など、具体の事例に即した学習についても重視していく。

・図書館の運営方針の検討にあたっては、貸出冊数の増加のみならず、公の施設としての役割を改めて整理し、目標を定める。また、尼崎城や歴史博物館とも連携し、図書館サービスの一層の充実に取り組む。

・生涯学習情報誌「あまナビ」については、引き続き関係部局と連携し、「学び」の情報を効果的に発信していく。

# 令和2年度 施策評価表(令和元年度決算評価)

施策名: 生涯学習  
 施策番号: 02 - 02

## 1 基本情報

施策名	02 生涯学習	展開方向	02 健康の保持・増進のため、気軽に運動やスポーツを楽しめる環境づくりに取り組みます。
主担当局	教育委員会		

## 2 目標指標

指標名	方向	目標値 (R4)		実績値							進捗率 (R1)	
				H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1		R2~R4
A 健康を意識した運動やスポーツを行っている市民の割合	↑	49.0	%	—	—	—	46.2	47.0	45.2	45.8		93.5%
B 誘致大会観戦者及び市民スポーツ大会参加者数	↑	72,049	人	80,257	66,980	68,029	67,316	63,960	69,407	68,728		95.4%
C 生涯スポーツ・レクリエーション事業参加者数	↑	18,379	人	14,784	14,294	13,135	12,516	9,973	9,330	10,862		59.1%
D 学校開放利用者数	↑	809,529	人	677,323	689,578	690,150	737,741	748,986	736,569	689,939		85.2%
E 地区体育館等利用者数	↑	456,050	人	407,715	405,533	412,669	401,034	402,173	388,179	363,379		79.7%

## 3 主要事業一覧

令和2年度 主要事業名	
1	サンシビック尼崎予防保全事業
2	(仮称)健康ふれあい体育館整備事業
3	オリンピックを契機としたスポーツ推進事業
4	パラリンピック応援事業
5	

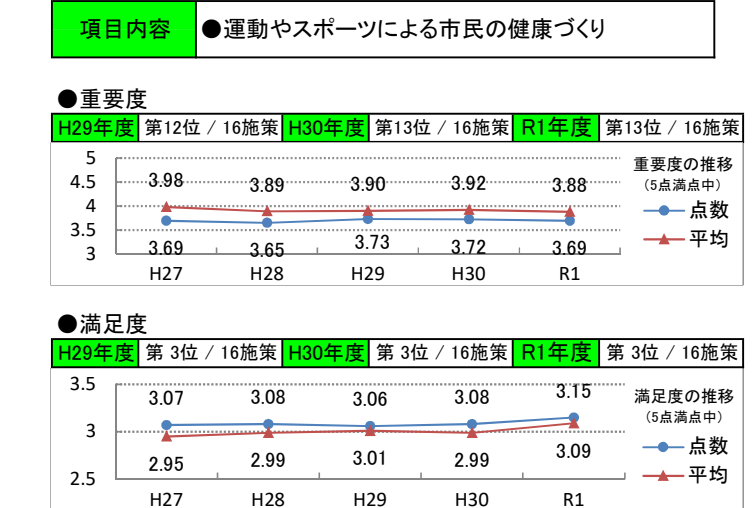
  

令和元年度(平成31年度) 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	

平成30年度 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	

## 4 市民意識調査(市民評価)



## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和元年度実施内容を記載)	
行政が取り組んでいくこと	●運動やスポーツによる市民の健康づくり
【市民のスポーツ実施率向上に向けた取組の推進】	(目的)様々なスポーツ施策を通じて、健康を意識した運動やスポーツを行っている市民の割合の向上を図る。 (成果)①誰もが気軽にスポーツを楽しみ、健康づくりができるまちづくりを進めるための指針として、令和2年度から10年間を計画期間とする尼崎市スポーツ推進計画を策定するとともに、計画の進捗管理を行うための指標を設定した。健康を意識した運動やスポーツを行っている市民の割合は45.8%となり、昨年度と比べ0.6%の増となった。また、市民のスポーツへの興味・関心を高めるため、東京オリンピックでは聖火リレーの実施に向けた準備のほり・懸垂幕を掲出し、東京パラリンピックでは応援事業の実施に向け、兵庫県と調整するほか、協力団体等と開催場所や実施方法について意見交換を行った。(目標指標A) (課題)①スポーツを行っている市民の割合を高めるためには、東京オリンピック・パラリンピックや聖火リレー等と関連する市民の関心が高いスポーツ施策に取り組む必要がある。
【各種スポーツ大会を契機としたスポーツの推進】	(目的)各種スポーツ大会を契機として、市民のスポーツへの関心や参加意欲を高めることにより、本市のスポーツの推進と競技力の向上を図る。 (成果)②全国大会の誘致を行っている「スポーツのまち尼崎」促進事業では、昨年度より1大会多い9大会を実施した。また観戦者数を増加させるため、大会ポスターを掲示する公共施設を増やした結果、観戦者数は900人増加し31,045人となった。その一方で、体育協会会長杯・市長旗大会においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となったため、参加者数が1,623人減少した。(目標指標B) (課題)②「スポーツのまち尼崎」促進事業において、事業の認知度を高め、観戦者数を増加させるためには、より一層情報発信を強化する必要がある。
【生涯スポーツによる健康づくりの推進】	(目的)市民が気軽にスポーツやレクリエーション活動に参加できる機会と場を提供することにより、市民スポーツの振興、市民の健康増進やコミュニティの形成促進を図る。 (成果)③スポーツ推進委員によるスポーツ要請指導事業において、市スポーツ関係団体への広報により、事業の周知を行った結果、要請数が昨年度より3件多い17件となり、参加者数も1,361人増加した。また、さわやか地域スポーツ活動事業(グラウンド・ゴルフ、ベタンク)の参加者数は5,354人となり、昨年度と比較し305人増加した。(目標指標C) (課題)③さわやか地域スポーツ活動において、高齢者の参加が多くなっているが、子育て・働く世代の参加がほとんど見られない。
【学校スポーツ施設の開放によるスポーツ活動の推進】	(目的)市民スポーツの拠点である、小・中・特別支援学校のスポーツ施設(グラウンド、体育館及び柔剣道場)を市民に開放することにより、市民が気軽に運動やスポーツ活動を行うことができる環境づくりを図る。 (成果)④利用者の増加のため、あまよう特別支援学校において、新たに学校開放を実施し、その利用人数は1,095人であった。しかし、3月に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、約1ヶ月間利用を休止したため、利用人数は昨年度と比較し46,630人減少し、689,939人となった。(目標指標D) (課題)④中学校では、小学校に比べ依然として利用率が低い状況にあるため、利用率の向上が必要である。
【社会体育施設を拠点とする健康づくりの推進】	(目的)地区体育館で実施する「健康づくり教室」事業などにより、地区体育館の利用者数を増やし、市民の健康づくりや地域コミュニティづくりの促進を図る。 (成果)⑤尼崎市スポーツ振興事業団が実施しているサルスースポーツ教室において、昨年度と比較し教室の種類を増やし、より利用者のニーズに対応した事業を実施した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止による約1か月間の休館により、利用人数は昨年度と比較し24,800人減の363,379人となった。(目標指標E) (課題)⑤利用者のニーズに合わせて事業の見直しを行い、参加者数の増加に努めているが、利用者からは、施設の老朽化についての意見が多く出ており、対応が必要である。

## 6 評価結果

令和2年度の取組	
【市民のスポーツ実施率向上に向けた取組の推進】	①新型コロナウイルス感染症防止の観点から開催が延期となった東京オリンピック・パラリンピックについては、聖火リレーや応援事業の実施に向けた調整を進めていくとともに、広報を積極的に行うことにより、市民の大会に対する更なる機運醸成を図る。また、ワールドマスターズゲームズ2021関西についても、市民の関心を高めることができるよう、大会に関連するイベントや情報発信に力を入れる。
【各種スポーツ大会を契機としたスポーツの推進】	②「スポーツのまち尼崎」促進事業において、ホームページ等に大会の写真を掲載し大会の様子を発信することにより、多くの市民に興味・関心を持ってもらい、観戦者数の増加につなげる。
【生涯スポーツによる健康づくりの推進】	③さわやか地域スポーツ活動において、親子で参加しやすい時間帯や場所での実施を検討する。
【学校スポーツ施設の開放によるスポーツ活動の推進】	④中学校の利用率向上に向け、学校行事等のない曜日や時間帯で中学校のスポーツ施設が利用できるよう検討を進める。
【社会体育施設を拠点とする健康づくりの推進】	⑤旧耐震施設である武庫体育館については、老人福祉センターとの機能を統合した(仮称)健康ふれあい体育館の整備に向け、設計業務及び環境影響調査等を実施する。サンシビック尼崎については、施設の大規模改修に向けた設計業務を実施する。

主要事業の提案につながる項目	
【市民のスポーツ実施率向上に向けた取組の推進】	①国際的なスポーツイベントである東京オリンピック・パラリンピックやワールドマスターズゲームズ関西を控えているため、これらを契機に更なる市民スポーツの普及・振興を図る。

●各種スポーツに関するイベントについては、規模や開催頻度などを工夫し、より魅力的なものにしていく。
●新型コロナウイルス感染症の影響によりオリンピック・パラリンピックについては開催延期となったが、引き続きスポーツの普及・振興を図り、市民の健康の保持・増進につなげていく。
●老人福祉センターと地区体育館の機能を統合する(仮称)健康ふれあい体育館の整備を機に、高齢者に対してはフレイル予防を実施するなど、各年代に即した事業を展開し、気軽にスポーツを楽しみ、健康づくりができるまちづくりを進める。